

# 余市町立地適正化計画

## 【まちづくりの方針】

# まちづくりの方針

第2回 余市町都市再生協議会  
提出時（資料3\_1 ページ）

余市町が抱える課題	人口減少に応じたコンパクトなまちづくりと効率的な行政サービス	JR並行在来線廃止に伴う都市構造の見直し	公共交通ネットワークの見直し	流入人口低下がもたらす地域経済悪化への対応	老朽化が進む公共施設の更新・再編
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口半減（30年後推計）による行政サービスの提供、財源不足への対応</li> <li>将来人口に応じたコンパクトなまちづくりと効率的な行政運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営分離される並行在来線（長万部一小樽間）の廃止とバス転換への対応</li> <li>鉄道によって分断されている市街地の在り方の再考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の核となるバスターミナル化の構築</li> <li>通勤や通学、高齢者や交通弱者、来街者に応じた公共交通の見直しと効率的な交通ネットワーク構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行在来線廃止に伴う流入人口の低下や町民の外出機会の減少がもたらす地域経済の循環悪化抑制</li> <li>中心市街地の空洞化食い止め、活性化促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が著しい公共施設の維持・修繕費用の確保</li> <li>長寿命化の視点に踏まえつつ必要に応じた施設の複合化・集約化</li> </ul>

町民アンケートの考察	<ol style="list-style-type: none"> <li>①人口減少、少子高齢化への対応           <ul style="list-style-type: none"> <li>行政に関わるサービスは、ICTをはじめとするデジタル技術を駆使して省力化や業務効率化を図り、現在の水準を向上することで町民の利便性を確保する必要がある</li> </ul> </li> <li>②拠点・都市規模の設定           <ul style="list-style-type: none"> <li>拠点のあり方と人口減少を見据え、コンパクトなまちとなるような都市規模を設定することが必要である</li> </ul> </li> <li>③防災・減災対策の強化           <ul style="list-style-type: none"> <li>都市のコンパクト化に対応した避難施設の収容人数拡充、避難訓練や防災教育の実施が考えられる</li> </ul> </li> <li>④空き家の増加が招く居住環境低下への対応           <ul style="list-style-type: none"> <li>分譲中古住宅の流通売買を円滑に行うしくみや組織、あるいは地域で空き家を管理して治安や景観の維持につなげる方法などの検討が考えられる</li> </ul> </li> <li>⑤住民主体のまちづくりの推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>町民の意見を広く取り入れ施策に反映し、持続可能な都市運営を図ることが重要と考えられる</li> </ul> </li> </ol>

# まちづくりの方針

見直し後

	人口減少に応じたコンパクトなまちづくりと効率的な行政サービス	JR並行在来線廃止に伴う都市構造の見直し	公共交通ネットワークの見直し	流入人口低下をもたらす地域経済悪化への対応	老朽化が進む公共施設の更新・再編
余市町が抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口半減（30年後推計）による行政サービスの提供、財源不足への対応</li> <li>将来人口に応じたコンパクトなまちづくりと効率的な行政運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営分離される並行在来線（長万部一小樽間）の廃止とバス転換への対応</li> <li>鉄道によって隔られている市街地の在り方の再考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の核となるバスターミナル化の構築</li> <li>通勤や通学、高齢者や交通弱者、来街者に応じた公共交通の見直しと効率的な交通ネットワーク構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行在来線廃止に伴う流入人口の低下や町民の外出機会の減少をもたらす地域経済の循環悪化抑制</li> <li>中心市街地の空洞化を食い止め、活性化促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が著しい公共施設の維持・修繕費用の確保</li> <li>長寿命化の視点に踏まえつつ必要に応じた施設の複合化・集約化</li> </ul>

青字部分は事務局による見直し箇所

町民アンケートの考察	<p>①人口減少、少子高齢化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政に関わるサービスは、ICTをはじめとするデジタル技術を駆使して省力化や業務効率化を図り、現在の水準を向上することで町民の利便性を確保する必要がある</li> </ul> <p>②拠点・都市規模の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>拠点のあり方と人口減少を見据え、コンパクトなまちとなるような都市規模を設定することが必要である</li> </ul> <p>③防災・減災対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市のコンパクト化に対応した避難施設の収容人数拡充、避難訓練や防災教育の実施が考えられる</li> </ul> <p>④空き家の増加が招く居住環境低下への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分譲中古住宅の流通売買を円滑に行うしくみや組織、あるいは地域で空き家を管理して治安や景観の維持につなげる方法などの検討が考えられる</li> </ul> <p>⑤住民主体のまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町民の意見を広く取り入れ施策に反映し、持続可能な都市運営を図ることが重要と考えられる</li> </ul>
------------	--

# まちづくりの方針

第2回 余市町都市再生協議会  
提出時（資料3\_2ページ）

## まちづくりの方針

都市構造の変化に対応し、すべての人が快適で安全な生活を  
享受できるまちづくり

### 課題解決のための 施策・誘導 方針

#### 都市構造の再編による都市・生活機能の集積

- ・都市機能誘導区域は「黒川地区」を中心に複数の拠点を設定（多核化）し、秩序ある市街地の構成を目指す
- ・居住誘導区域は「まほろば地区」を含め、将来人口を見据えて設定する
- ・区域設定に際しては、災害ハザードと照らし合わせて安全な地域への誘導を行い、「防災・減災」に対応したものとする

#### 鉄道で分断されている東西のまちの一体による拠点化の強化

- ・駅周辺において、東西連絡動線を確保し、高齢者や観光客にもわかりやすいユニバーサルデザインに配慮したものとする
- ・駅前の道路「リタロード」の景観改善及びバリアフリー化を行い、沿道地域の活性化と、役場など行政機関が集積する朝日町へのつながりを強化する

#### 公共交通ネットワークの再構築

- ・現JR余市駅周辺の「バスターミナル化」を図り、地域公共交通の核となる機能を担保する
- ・バスによる「通勤・通学及び医療施設等」へアクセスする公共交通の利便性を確立すると共に、観光客の後志管内への周遊を図るため、新たに開業する「新幹線駅」を含む周辺市町村へのアクセス性の強化を図る。

#### 地域産業及び観光業の振興

- ・「道の駅」を余市IC付近に新規に計画し、まちのゲートウェイ機能を強化する
- ・「DX化」の推奨により、快適で利便性の高い都市を構築し、企業誘致や都市部からの移住促進を図る
- ・増加する空き家、空き店舗など「既存ストック」の積極的・有効的な活用を進める

#### 環境に対応した持続可能なまちづくり（SDGs）

- ・公共公益施設は、都市機能誘導区域内への移設により「集約・複合化」を行い、利便性とあわせて維持管理の効率化も図る
  - ・新たに建設する施設は、環境に配慮してZEB※化を促進し、「ゼロカーボン」の達成を目指す
- ※創エネ・省エネによりエネルギー収支ゼロを目指す建築物

# まちづくりの方針

見直し後

## まちづくりの方針

都市構造の変化に対応し、すべての人が快適で安全な生活を享受できるまちづくり

### 課題解決のための 施策・誘導 方針

#### 都市構造の再編による都市・生活機能の集積

- ・都市機能誘導区域は「黒川地区」を中心に複数の拠点を設定（多核化）し、秩序ある市街地の構成を目指す
- ・居住誘導区域は「まほろば地区」を含め、将来人口を見据えて設定する
- ・区域設定に際しては、災害ハザードと照らし合わせて安全な地域への誘導を行い、「防災・減災」に対応したものとする

#### 鉄道で隔てられている東西のまちの一体による拠点化の強化

- ・駅周辺において、公共交通を含めた東西連絡動線を確保し、高齢者や観光客にもわかりやすいユニバーサルデザインに配慮したものとする
- ・駅前道路「リタロード」のバリアフリー化、電線共同溝等の景観整備を行い、沿道地域の活性化と、役場など行政機関が集積する朝日町へのつながりを強化する

#### 公共交通ネットワークの再構築

- ・現JR余市駅周辺の「バスターミナル化」を図り、地域公共交通の核となる機能を担保する
- ・バスによる「新幹線駅」を含む周辺市町村へのアクセス性の強化を図り、観光客の後志管内への周遊、地域住民の町外移動の利便性を向上する

#### 地域産業及び観光業の振興

- ・「道の駅」を余市IC付近に新規に計画し、まちのゲートウェイ機能を強化する
- ・「DX化」の推進により、快適で利便性の高い都市を構築し、町外からの移住促進を図る
- ・増加する空き家、空き店舗など「既存ストック」の積極的・有効的な活用を進める

#### 環境に対応した持続可能なまちづくり（SDGs）

- ・公共公益施設は、都市機能誘導区域内への移設により「集約・複合化」を行い、利便性とあわせて維持管理の効率化も図る
- ・新たに建設する施設は、環境に配慮してZEB・ZEH※化を促進し、「ゼロカーボン」の達成を目指す

※創エネ・省エネによりエネルギー収支ゼロを目指す建築物

赤字部分が変更箇所

青字部分は事務局による見直し箇所